



大室小学校

所在地：大室 356
児童数：466人 学級数：15学級

見て！聞いて！ わたしたちの学校



6年生の(左から)白石大智さん、吉原麻実さん、小玉恭輔さんに聞きました。

白石さんに聞きました！ 大室小学校の自慢は？

給食がおいしいところです。調理員さんが学校の給食室で愛情を込めて作ってくれます。また、中国の日やインドの日など、各国の料理が出る国際理解給食もあります。

吉原さんに聞きました！ 好きな学校行事は？

友愛祭りです。スポーツ少年団ごとに出す模擬店は、自分たちで考えるので楽しいです。

小玉さんに聞きました！ 好きな授業・時間は何かですか？

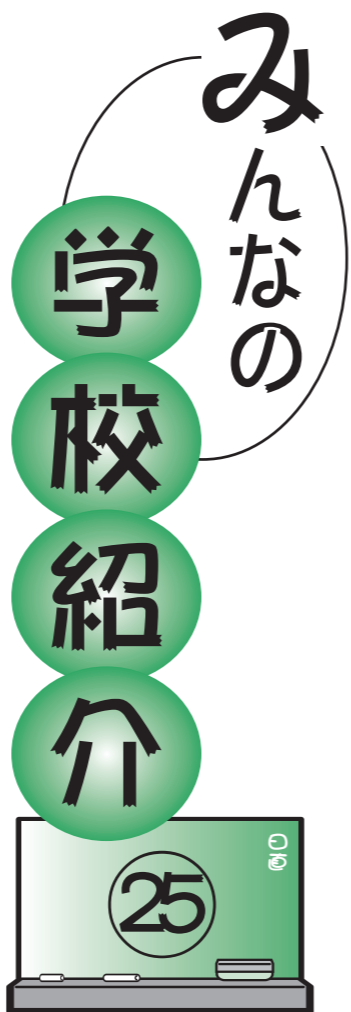
体育の授業です。スポーツは全部大好きですが、特に先生が作ったボールを4つ使うドッジボールはとても楽しいです。

3人に聞きました！ 将来の夢は？

白石さん：料理が好きなので調理師になりたいです。

吉原さん：ピアニストかピアノの先生です。

小玉さん：プロのサッカー選手です。



❖大室小学校の紹介❖

大室小学校は明治8年、旧大室村中(野火除)に教民舎として開校しました。昭和28年に現在地へ移り、昭和55年に現在の校舎が建てられました。大室小学校では、緑に囲まれた環境を生かして学校の緑化活動に力を入れており、その成果は、平成3年の学校緑化活動推進功績内閣総理大臣賞を初めてとする、数々の受賞に表れています。緑豊かな校庭では、休み時間に元気に遊ぶ子どもたちの姿が見られます。



① 1年生から6年生までが縦割り班や各学年で組織した「みどりの少年団」として、みどりっ子活動に取り組んでいます。学校農園でのサツマイモ栽培では、春に苗植えを行い(写真①)、秋にはたくさんのサツマイモを収穫しています。昨年度は、収穫したサツマイモを給食で調理してもらい、シチューや味噌汁などをみんなでおいしくいただきました。

② また、毎年6月には、地域の高齢者と会話やゲームなどを楽しく過ごす「ふれあい活動」を行うほか、奉仕活動を通して地域の皆さんとの交流を深める活動なども行っています。



❖みどりっ子活動❖
1年生から6年生までが縦割り班や各学年で組織した「みどりの少年団」として、みどりっ子活動に取り組んでいます。学校農園でのサツマイモ栽培では、春に苗植えを行い(写真①)、秋にはたくさんのサツマイモを収穫しています。昨年度は、収穫したサツマイモを給食で調理してもらい、シチューや味噌汁などをみんなでおいしくいただきました。

❖友愛祭り❖
大室小学校には、子どもたちや保護者、地域の人たち、そして教職員も楽しみにしている「友愛祭り」があります。今年で8回を数える友愛祭りは、毎年11月に開催されるPTA・スポーツ少年団主催のお祭りですが、教職員や地域の人も参加することで、世代を超えたふれあいの場となり、地域の行事として定着しました。会場には、模擬店や売店、バザー、行列のできるラーメン店など、いろいろな催しがあり、毎年大盛況です(写真②)。

ひゃっかふ 百花譜の世界ー高山に咲く花々 ～五百城文哉の『高山植物写生図』～

植 物画の画集を意味する『百花譜』を紹介するシリーズの第1弾として、日本の植物画の歴史上、最も重要な位置を占めているとされる五百城文哉の『高山植物写生図』を、水戸市立博物館の協力の下、5年ぶりに展示します。

会 期：5月24日(土)～7月6日(日)(会期中は無休)
開館時間：午前9時30分～午後5時(入館は午後4時30分まで)
入 館 料：一般…700(300)円、大学・高校生…500(200)円、小・中学生…無料
※()内は市民割引券を利用した際の料金です。右上にある市民割引券を切り取ってご利用ください。

◆ギャラリートーク

五百城文哉の描く精細な植物画を鑑賞しながら、現在の奥日光で見られる花々のお話を伺います。
と き：6月28日(土) 午後1時～2時30分
講 師：宮地信良氏 参加費：入館料のみで参加できます。



五百城文哉『高山植物写生図』より「シラネアオイ」
紙・水彩 個人蔵

日光市の文化財 ⑮

日光市指定文化財 横川如意輪観音堂



種 別 有形文化財(建造物)
指定年月日 平成元年6月30日
【旧藤原町指定】
所 在 地 日光市横川

横川如意輪観音堂は横川集落の入口の国道沿いにあり、江戸時代後期に建築されたものと考えられています。構造は、三間(約五・四m)四方の入母屋造りで、多くの部材が当時のまま保存されています。外面は全体的に塗装がされていたようですが、今は彫刻にわずかな彩色が残っているのみです。内部は畳敷きとなっており、奥の壁には金箔が貼られ、厨子(仏像などを安置する仏具)が安置されています。外面の塗装や内面の金箔など華やかな造りから、この観音堂が当時この地域に住んでいた人々の信仰の対象として、重要な役割を果たしてきたことがうかがわれます。天明八(一七八八)年の「御廻国様御通行ニ御案内帳」や文化六(一八〇九)年の「新編会津風土記」に、この観音堂と考えられる記載が見られますが、記録当時と現在のお堂が同じものであるのかは、残念ながら不明です。

